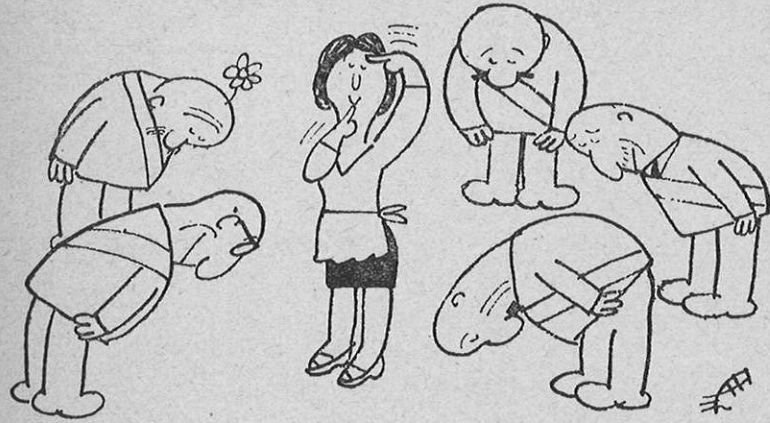


# 7月1日は投票日

— 参議院議員通常選挙 —



みなさんリップに見えるけど……どれどれマユにツバつけて

馬場のぼる

いち大事金やお義理のときじやない  
この一票飲むな握んなうしつんな  
一杯の茶ワン酒からジユツつなぎ

本渡市 森 ソミ  
長洲町 小川 藤 雄  
本渡市 荒木 一 且

円で、五つの橋でつなぐことになり、橋の総延長は、千九百八十七尺、道路の延長が六千八百五尺となつております。四十年にはできあがる予定で、これが完成すると、相当な経済効果が期待されます。

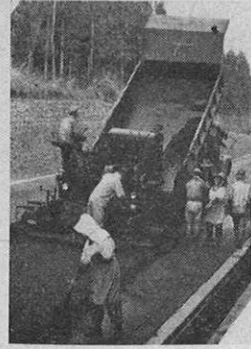
**経済効果は年間十五億円**

調べたところでは、昭和三十四年に旅客が百二十万人、貨物が百五十八万トン動いているので、あれやこれやを計算すると、完成のあかつきには、この橋がもたらす経済効果は、年間十五億円を下らないといわれております。

## 道路の改修に拍車を

道路は着々と整備されて、熊本の悪道、の汚名も必ず返上する日がやってくるものと確信致しております。

昭和三十四年までは、年間四億四億位しか国道は予算がついていなかったのが、昨年は十二億円、今年は十三億八千万円がついており、福岡から入って鹿児島にぬける国道三号線が急速に改修されていくは喜ばしいことです。

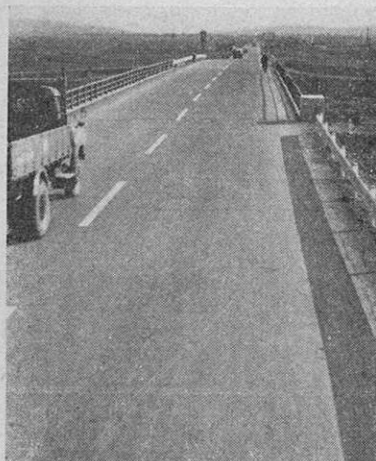


**九州横断道路も急ピッチで**

阿蘇の一の宮から別府にぬける九州横断道路のうち、一の宮から湯布院まで五十四キロが着工されて二年目に当たっており、三十九年の東京オリンピックまでには完成することになります。

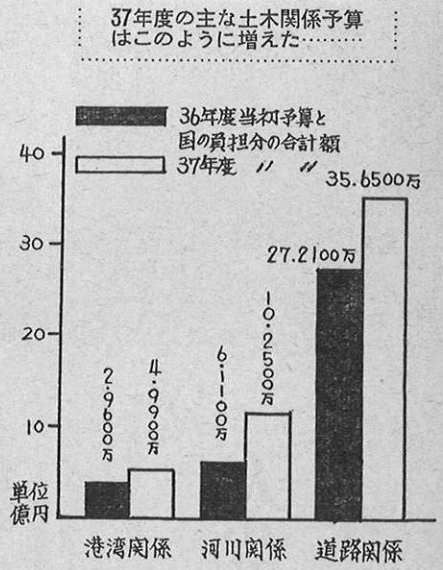
九州横断道路は、長崎を起点に、島原—三角—熊本—阿蘇—別府と、文字どおり九州を横断するもので、総延長は三百キロとなります。天草架橋の完成とあわせて考えると、交通の整備には大きな楽しみが期待されるわけであり、

これまで非難されてきた悪道の一つであった三角—宇土間、熊本—阿蘇間も、前年度にくらべると、うんと予算が増加しました。



## 単県の道路費も……

さらに、単県の道路予算として、維持費に二億五千万円しかみていなかったもの



で、前年度の九三%しか要求していません。関係者を集めて協議して陳情したところ、一〇%にまで下げました。

その後、国会議員の方たちの骨折りなどがあつて、熊本—佐賀線、三角—宇土線、熊本—阿蘇線に新たに予算がつき、前年比約一〇%増、その他の地方道で約六%ほど予算がふえることになり、六月県議会に追加する予定になっております。

## 国民休暇村も誘致

観光関係では、ずいぶんとあちこちからご注文がでておりましたが、熊本市に關係の深いものでは、ご要望どおり今年から金峯山に登る道路を改修する予算二千万円をつけております。

これは第一年度分で峠の茶屋から上をひるげることになっております。それから江津湖から水上機を飛ばして、天草などの観光遊覧飛行をやるために渡瀬予算三百万円を組みこんでいます。下江津を中小河川ということで渡瀬するわけでございます。

## 熊本県は上り坂に

そのほか阿蘇をはじめ国立や国定の公園の整備をはかる一方、国民休暇村誘致のための調査や、観光開発を調査する必要があるため、観光事業費に二千万円近くを計上しました。

以上が大体、今年の予算を通してみた、大ざっぱな県政の動きでございますが、このほかに、今年から着工しました玉名平野の土地改良事業、今年から本格的調査に乗り出すことになった不知火干拓事業、熊本—八代間の鉄道複線化電化の計画など、熊本県には大きな事業が沢山あります。

## やれるという自信

今年の正月、ご用始めの式の時、私は県庁職員に対して、キリストの言葉をかりて、「燭を台の上に置き、せつかくの燭をマスの下におかないように」ということをいつておきました。これは単に県政をうんとPRせよということではありません。ものごとの実情をよく話し、説明してわかつてもらえようということからであります。

誤解や政争は、いつたいに事情がよくわからない、お互の意思が通じあわないところから生れるものなのでございませう。県政の実態をよくわかつていただくために今日のこの機会に役立つと思つて、このお話を引き受けたい次第でございます。

私としては微力ながら、いままでも担当してきたものを、任期中にメハナをつけるように、最善の努力を講じていかなければならないと考えているわけでございませう。

どうか、ご理解とご協力のほどをお願い申し上げます。長い時間にわたつてまとまりのつかないお話を申し上げて恐縮でございました。(拍手)

## 郷土発展のチャンス

じつと熊本県の現状を直視すると、いま熊本県は発展のための大きなヤマ場にさしかかっているのだということがわかります。熊本県が発展し、県民の所得が他県に引きあげられるチャンスは、いまをおいてはないような気がするのでございませう。

熊本県民は、国体という大きな行事を、実に立派に、他県の模範になるようなもの